



元気っ子

N o 335 ながさわ保育園

園 長 中 瀬 弦 偉

今月より紙のおたよりがなくなりました。保護者の皆様においては、ペーパーレス化に伴う連絡帳等の ICT 化にご理解ご協力を頂き大変感謝しております。運用初期は何かとご不明な点がありかと思いますので、ご質問等ございましたら遠慮なくお声掛け下さい。

先月は乳幼児期の「経験カリキュラム」と小学校以降の「教科カリキュラム」の違いについてお話をさせて頂きました。そして乳幼児期の「教科カリキュラム」の先取り（早期教育）はあまり効果が期待できない（初期段階では効果があっても数年で消滅し逆転現象が起こる）ことが様々な研究によって明らかになっていることもすでにお伝えさせて頂いております。

では、この「経験カリキュラム」を実践するうえで、最も重要になるのが、その子の現在の発達段階を的確に捉えることです。発達には月齢差だけでなく、個人差がとても大きいので、周りの子どもとの比較では見極めることが難しく、しっかりと「その子がどうなのか」を把握することからスタートします。これはながさわ保育園で実践している「見守る保育（藤森メソッド）」の「見る」の部分です。「見守る」という言葉は誤解を招きやすいかもしれませんが、「ただ見ているだけ」の放任とは全く違います。逆にむしろ徹底的にその子の発達段階を分析することが「見る」なのです。（「観る」の方が意味に沿っているかもしれません）そして、その子の興味関心や発達に合った「環境」を用意すること、例えば、虫が好きならば虫取りに行く時間を作る、ボール遊びが好きならばボール遊びができる空間を用意する、読書が好きならば図書館に行く時間を作る等が「子どもの発達を保障する」つまり「守る」なのです。これが「経験カリキュラム」を実践する意味でもあり、ながさわ保育園で意識的に実践している保育方法です。これはご家庭においても実践しやすいと思いますので、是非取り組んで頂けたらと思います。

ただ気を付けなくてはいけないのは、子どもが求めているのに、大人の一方的な判断で次から次へと様々な経験を植え付けることは、避けたいことかもしれません。但し、「きっかけ作り」は大切なので、この辺りは子どもの様子を注意深く観察しながら見極めたいところです。この大人からの一方通行が過度になりすぎると、サービス過多により、子どもが主体性や意欲を失い、やがては人の指示がないと動けない、または上手くいかないことを他人や環境のせいにするようになってしまうことがあるので注意が必要です。

また、子どもが意欲的であり、主体的であるからといって何でも許してしまうことも気を付けたいといけません。そういう時は一定のルールを「子どもの意見も聞きながら」作ることが必要です。このことは、子どもの権利条約第 12 条で「子どもは自分自身に関係のあることについて自由に自分の意見を表す権利を有する」と規定されています。大人はきちんとこの機会の保障を心掛ける必要があります。決して大人が決めてしまわないようにしたいものです。

また、今年度は 4 月から比較的家庭でも実践しやすい保育・育児の方法についてもお伝えさせて頂いております。学童期に入ってリカバリーが難しくなる前に是非取り組んで頂けたらと思います。酷暑が続いておりますので、子どもの健康観察に特に注意しながら保育をしままいります。